

令和4年7月11日

市議会議員選挙の実施時期に 関する調査特別委員会

阿久根市議会

1 会議名 市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会

2 日時 令和4年7月11日（月）

午後1時30分開会

午後2時36分散会

3 場所 議場

4 出席委員

濱崎國治委員長、濱之上大成副委員長、竹之内和満委員、
川上洋一委員、濱門明典委員、白石純一委員、
濱田洋一委員、竹原信一委員、仮屋園一徳委員、
中面幸人委員、牟田学委員、岩崎健二委員、
木下孝行委員、山田勝委員

5 事務局職員

次長兼議事係長 上脇重樹、議事係主査 東岳也

6 参考人

(1) 陳情第10号陳情書提出者

一般社団法人阿久根青年会議所理事長 中村 壯 氏

阿久根商工会議所副会頭 中村 健二郎 氏

(2) 陳情第11号陳情書提出者

松木洋輔氏

下園正博氏

大野雅子氏

7 会議に付した事件

(1) 陳情第10号 阿久根市議会議員選挙を阿久根市長選挙と同日に実施することを求める陳情

(2) 陳情第11号 市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とするために行う市議会の自主解散を求める陳情

8 議事の経過概要 別紙のとおり

市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会

令和4年7月11日（月）

開会 午後1時30分

調査の経過概要

○ **陳情第10号 阿久根市議会議員選挙を阿久根市長選挙と同日に実施することを求める陳情**

○ **陳情第11号 市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とするために行う市議会の自主解散を求める陳情**

濱崎國治委員長

ただいまから、市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会を開会します。

この際、陳情第10号及び陳情第11号を一括して議題とします。

本日は、さきの委員会で決定したとおり、陳情者を参考人として呼び出していますので、陳情趣旨や意見を聴取します。

なお、委員長において全ての陳情者に出席を求めましたが、陳情第10号の陳情者である阿久根建友会、北さつま水産物仲買協同組合及び阿久根市水産研究会については、都合により欠席し、陳情趣旨の説明は陳情代表者に一任するとの御連絡を受けています。

御出席いただいた参考人は、陳情10号については、一般社団法人阿久根青年会議所理事長中村壯さん、阿久根商工会議所会頭の代理人の副会頭の中村健二郎さん、陳情第11号については、松木洋輔さん、下園正博さん、大野雅子さんです。

それでは、参考人は入室してください。

[参考人入室]

濱崎國治委員長

参考人に御出席いただきました。

参考人におかれましては、大変お忙しい中、本委員会の審査のため御出席いただき誠にありがとうございます。委員会を代表して御礼申し上げます。

ここで、参考人に発言についてお願いがあります。御発言される際は挙手をしていただき、委員長から「誰々参考人」と指名されてからお願いします。

また、委員会記録作成のため録音しておりますので、マイクを近づけて、マイクのランプが点灯したのを確認されてからお話をしてくださるようお願いいたします。

それでは、参考人から陳情趣旨について説明がありましたらお願いします。

まず、陳情第10号について、青年会議所の中村理事長からありますか。

中村壯参考人

お疲れさまです。

今回陳情書を出した経緯といたしまして、私たちも選挙管理委員会にも出向させていただいておりまして、4か月の間にまず、何度も選挙立会に伺います。そうすると、普段の仕事の有休を申請をして立ち会う、これが何度も何度も続くというのも私たちも実感としてありますし、期日前投票で来られる市民の方たちが実際に来られて、何度も来ないといけない。これが負担になってらっしゃるんじゃないかなど。ここが一つ大きな

ところでした。4か月の間に3回の選挙というと、私たち若い世代だけではなく高齢の方たちにとってはものすごく負担がかかっていらっしゃるのではないかと。そこを踏まえ、また、選挙については費用もかかる場所ですから、市政の財政圧迫といいますか、その負担を少しでも減らすことができるのではないかと思います、今回陳情しております。よろしくお願いいたします。

濱崎國治委員長

商工会議所の中村副会頭からありますか。

中村健二郎参考人

皆さんお疲れさまです。商工会議所としましては、本当は、今日は会頭が来られるところですが事情がありまして来られませんでした。会頭から、こういう経緯でということで話を受けてきましたので、それを発表したいと思います。

市長選挙が12月、ちょうど忘年会シーズンに入るので、商工業としてはそういうときに、市長選挙はなかなか変えられないと思うんですけども、議員さんの方々が4月にあるときも、3月に送別会、4月に歓迎会という形でありますので、そういうときに選挙があるとなかなか夜の町も寂しいところもあると思いますので、そういうところを加味して、市長選挙は12月また市議会議員選挙は4月ということで、自分たちが見たときに近いので、少しでも一つにまとめてもらって、皆様方がまちの活性化に協力いただければなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

濱崎國治委員長

次に、陳情第11号について、松木さんからありますか。

松木洋輔参考人

この陳情を出すに当たって、署名を集めて回ってるところでありますけども、署名を集めるときに住民の方の生の声を聞くことがありまして、やっぱり4か月の間に3回も選挙があると、特に高齢の方、車の免許を持っていらっしゃらなくて、なかなか移動手段がないという方（訂正あり）が選挙に行かれるのは、かなりの負担であると。ただ、やっぱり周りの目があるので行かなければいけない、すごく大変であるという声を聞いております。その辺りをできるだけ負担を減らして、3回が2回になるだけでも住民の方の負担が減ると思います、陳情させていただきました。

よろしくお願いいたします。

濱崎國治委員長

休憩に入ります。

(休憩 午後1時37分～午後1時38分)

濱崎國治委員長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

議事を継続します。

松木洋輔参考人

先ほどの発言で、「_____」という発言がですね、差別用語に当たるということでしたので、車の免許を持っていらっしゃらなくて、なかなか移動手段がないという方がい

らっしゃると訂正をお願いします。

濱崎國治委員長

ほかのお二人からありますか。

下園正博参考人

お疲れさまです。私が今回この署名をさせていただいたのが、今やはり企業としても非常に厳しいというか、どうやって経費削減していこうかと常に考えています。これは市政も一緒だと思うんです。これからどんどん人口も減って行って、財源というのでも減っていく中で、削減できるものは削減したほうが良いというふうに思っています。私は今回の話を聞いてですね、これは本当に、二つを一つにまとめるだけで、これが100万円なのか1,000万円なのか分かりませんが、削減できるのであればしたほうが良いと思っています。これは私たちが市議会議員の方たちに投票して、市議会議員さんになっていただくわけですが、その任期を全うするために投票することではなくて、市政として、市としてどういう形にしたらいいかというのをお任せするために投票しているというふうに考えています。なのでこれは、もし任期が短くなったとしても、これが市政のためになるのであれば、そちらのメリットのほうが大きいんじゃないかなというふうに思っています。もし、別々にしたほうがこういったメリットがあるというのが意見があるのであれば、私はそちらでも良いと思ってるんですけども、今のところ私の考えている中では、一緒にすることでのメリットしかないというふうに考えているので、今回署名させていただいた次第であります。

濱崎國治委員長

大野参考人からありますか。

大野雅子参考人

皆さんこんにちは。今日は女性の意見として、一言、要望を聞いてくださるということでしたので参りました。

そうですね、私は母を介護していたりすると、やっぱり選挙には行きたいというんですよ、年寄りですからね。連れていきます。それが4か月に3回もあれば、それはとても本人にも負担になりますし、そういう高齢者って、私たち世代にはとてもたくさんおられます。そういう負担が少しでも減れば良いなと思います。

それと、私は主婦ですので、今、コロナ禍でどんどんいろんなものが値上がりしております。そういうのを踏まえて、少しでも削減できるところは削減していただいて、また違う政策に使えたら、それは阿久根市のためになるんじゃないかなと、とても思っております。それをぜひ議員の先生たちにいい案をいろいろ考えていただいて、よく練っていただきたいと思って、今日はお願いに参りました。

どうぞよろしくをお願いします。

濱崎國治委員長

参考人の説明が終わりましたので、質疑を行います。

濱之上大成委員

参考人の皆さん、お忙しい中に本当に御苦労さまです。ありがとうございます。

本来であれば、会の代表それぞれの方が参加されて、そしていろいろと聞こうと私は個人的には思ってまいりました。今、来ていらっしゃる方に、まず第1点目は、ここに至るまでの総会あるいは臨時総会、役員会等を開催されての結論による陳情と私はその

ように信じていたしておりますが、それぞれの臨時総会、役員会等が出た意見等を開示できるとすればお示しいただければなど。これが第1点目の質問です。

中村壯参考人

青年会議所では、総会自体は開いておりません。理事会も正直開いておりません。正・副のミーティングという形で、正・副理事長、専務理事で話し合いをした結果、今回の陳情をいたしております。出た意見としましては、最初に出た意見は、統一地方選挙と一緒にできないのか。それは県議選と市議選と一緒にできないというのも現状として説明をしたところですよ。市議選挙と市長選挙をなぜ一緒に、それだけ空いてるというのも、僕たちも当時ここに住んでたわけではないので、こっちに帰ってきて住んでる人間も結構いるものですから、なぜこうなってるのかという今の選挙期間、いつ、どんな選挙があって、こういうふうになっているという説明をみんなで共有をしたところですよ。4か月も空いてると法律上一緒にできないということも今回勉強させていただきましたし、じゃあ、する方法って何だろうかというところで、陳情に至った経緯となります。

中村健二郎参考人

商工会議所は、総会を開く前にはもう出してあったんですけど、常議員会のほうで意見を取りまして、出しました。それで6月の終わりに議員総会がありましたので、そのときに報告をさせていただきました。意見としましては、皆さん、できれば市長選挙と議員選挙と同日に持っていければということが多かったですので、こういう形で出させていただいたということです。

濱之上大成委員

私たち議員は、地方自治法で定められた4年に1回の選挙で、市民に選ばれて任された4年という期間を全うするのが、道義、人の行うべき正義を貫くことではないかと私は思っております。私たちの議員活動に、残念ながら不信感を持たれている市民の方々もおられるかもしれませんが、市民の皆さんに選んでいただいた私たち議員は、それぞれに市の繁栄・発展のため、あるいは、災害、防災、経済対策、教育問題など種々取り組んでいるつもりではありますが、その一方で、市民の方々がそれぞれの議員の活動の実態をしっかりと納得して、100%理解されることは難しいところでもあります。私たち議員は、市民の皆さんに任された4年という期間を全力で取り組み、その責務を全うすることこそが法的・道義的責任を取ることと考えております、私一人かもしれませんが。

そこで、参考人の皆さんに、お一人お一人にお尋ねします。

この点、つまり4年という期間を全力で取り組み、その責務を全うすることについて皆さんはどう思われますか。お一人お一人お聞かせください。

中村壯参考人

先ほど濱之上議員がおっしゃったみたいに、4年という任期。もちろんそれは大切なことだと思っております。ですが、もちろん4年という期間を付託してるようなものですね、市民から。それももちろん重々承知の上であります。私個人としましては4年という任期はもちろん大切。ですが、もっと市政において、先ほど下園参考人がおっしゃったように削減できるタイミングがここなのではないかなと、費用についてですね。大野参考人もおっしゃったように、この費用をもしほかに、教育とかに充てていただければ、その1回の浮いた費用をここで使えるタイミングだと思うんですよ。もちろん

ん4年間という来年の4月まで。それはもちろん分かります。ですが、その期間、今までの3年ちょっとですね、今の期間でいうと。いろいろされてることももちろん存じ上げております。市議会だより等ももちろん熟読もさせていただいておりますし、こういうことされてるんだな、こういう質問をされているんだなというの、もちろん分かっているつもりです。ですが、本当に費用の削減とか、市民の負担の削減のために動けるのは市議会しかないと思ったので、このタイミングでの陳情ということも御理解いただければと思います。

中村健二郎参考人

濱之上議員がおっしゃることは、よく分かります。別に市議会議員の皆様方に不信感とかそういうのがあるわけでもありません。最終的には、議会のほうでもまれて結論が出るとお思いますので、議会のほうでもんでいただければいいと思うんですけれども、自分たちは陳情を出しただけですので、そこは。そんな、軽く言っているわけではないですよ。皆様方にそこを諮っていただいて、同日にするかしないかは、そこで決めていただければと。今日は参考人ということで、自分たちのただ思いを言っているだけです。その辺を聞いていただければと思います。

松木洋輔参考人

今、中村さんがおっしゃったようにですね、4年という期間を全うされたりというのは、もう本当に重々よく分かりますし、そうしていただいたほうが正しいことなんだなとは思いますが、さっき中村さんが言われたように、少しでも費用削減できて、それをほかの事業に回すことができるのであれば、議員の皆さん方に考えていただいて、お願いできないかなというのがこの陳情です。

下園正博参考人

私も、4年間という期間を全うしていただくというのはもちろんなんですけれども、ただ、その期間が大事というよりは、何をしたかということが大事だというふうに考えています。それは4年間ということよりも1年間で何かすごい成果が出ることもあるのであれば、それはそちらのほうが私としてはいいと思っておりますし、その市民の方たちに、例えば今回、4年間全うせずに短くなってしまったけれども、でもそうすることによって、市の財政が数100万円、1,000万円、これだけ削減できる。それをほかのまちづくりに活用できるという話を、市議会議員の方たちがほかの市民の方たちにしたときにですね、市民の方たちがどちらを納得するかという話だと思います。いや、それでも4年間全うしないとは何事だと怒る市民の方もいらっしゃるかもしれませんが、それは市民の方たちの意見だと思いますので、ぜひそういう説明をしていただければいいのではないかなと考えています。

大野雅子参考人

全員に聞いてくださいということでしたので私も答えさせていただきます。本当に皆さんお世話になっている方ばかりで、全然そんな悪い気持ちは持っていません。それなのに4年間ということですね。そこは大切にしていってほしいというのは本当にありがたいことだと思っております。ですけど今回の場合は、どこかで一緒にしてほしいというのが私の思いでした。叱られるのを覚悟で、ここに参ったという次第でございます。その辺をお酌みおきいただいて、これからもよろしく申し上げます。どうぞ市政のためによろしく申し上げます。

濱之上大成委員

私自身も複雑な思いで今、聞いているところでありまして、非常に感動もしてますし、複雑な思いなんですけど、しかし、参考人がせっかく来ていらっしゃると思いますので、それなりの質疑をさせていただきたいと思います。

次、3回目ですけども、先ほど来、皆さんから話がありますように、それぞれの立場からの要望に100%応えるということは、なかなか難しいと同時に理解していただきたいんですけど、評価されると思うが、それなりにその立場で理解されて行動ができたとしたら評価されると思います。しかしその一方で、実際に要望を出したのに、実をとってない、理解されていないというようなことがあったりして、いろいろ難しい点があることも事実であります。

そこで、3回目なんですけど、私たち議員が、なぜかという、この途中で辞めるということの思いです。このことは、むげに私がこういう陳情に対して反対・賛成を言うんじゃないでして、無責任なことと思わないかという人もやっぱりいらっしゃることは確かなんです。そこで、皆さんがそのような、こういう状況を今これまで御教示されましたので、おおよそは理解します。ですが、そういう人がいるということも理解していただきたいんですけど、それだけは理解していただければ、挙手だけお願いしたいんですけどいかがですか。

〔参考人挙手〕

はい。ありがとうございます。

そこでですね、もう最後にします。ただ問題は、私たちは、それぞれの市民一人一人のささいな困窮・困惑に対しても、相手の立場に立って、誠意をもって取り計ったり、適切に取りなし方を模索してきたと思っている一人であります。今回のこの10号、11号で、中身はもう申し上げませんが、特に私が気になったことは、私たち議員に求められている自主解散という言葉であります。10号にしても同日選挙。これは時間的な猶予もないですので、自主解散を求めているものと私は理解する一人ですけども。この自主解散とは、果たして人に求める言葉でないのではありませんか。いかがでしょうか。これまでも、議員、議会より、市民からの判断、行動、思いによるこれまでリコール、さらには解散となりました。そのたびに議会議員への不平、不満が飛び交って、逆にその一方で私自身、その流れによって39歳にして議員をさせていただくことができました。感謝していいのかどうか分かりませんが。しかし、やはり私が思うには、相手を批判する前に、相手を批判するだけの資格が自分にあったかどうか疑うほうがいいと願う一人の人間として、やるせない気持ち、悲しい思いを感じながら、私の心情として、義憤、やるかたない思いであります。

そこで、もう一度申し上げます。

自主解散とは、人に求める言葉ではないのではありませんか。

お一人一人に。お聞かせください。

中村壯参考人

濱之上委員の熱い思いも本当にありがとうございます。

国立闘争のときからリコール等があり、まちが二分したり、そういうことを私たちも幼いながらに体感をしてきました。ここ何年かですね、特に私がこちらに帰ってくる前にもリコール等があって、まちが割れたのも体感しております。なので、今回の表現

として、リコールという表現を使いたくなかったのが一つあります。

もう一つ、それとこれは議員の皆さんに求めることですから、私たちから解散をリコールするのではなくて、自主的に解散をしていただだけませんかという、あくまで陳情であって、表現がどうこうという中でも、選んだつもりでございました、正直。表現として、個人に求めるものではないので、これは市議会に対して求めることとして受けていただければと思います。

中村健二郎参考人

中村君が今説明されました。代表で出されてますので、そういう意見でありました。ありがとうございます。

濱崎國治委員長

松木参考人はいないですか。

〔松木洋輔参考人「ないです」と呼ぶ〕

下園正博参考人

自主解散という言葉を私、全く深く考えずに署名してしまったんですけれども、不快な思いを抱かせてしまったということは非常に申し訳なく思っております。

私たちが市議会議員の方たちには非常によくしていただいておりますし、全くその不審な気持ちがあるとか、何かその賛成してないということではなくて、この市のためを考えたならこれやったほうがいいなという気持ちで、本当、署名したという形なので、そこを御理解いただければと思います。

大野雅子参考人

私も全く同じ意見で、自主解散、言葉を知らないというのも、本当に申し訳ないですね。そんなに傷つけていたなんて、申し訳なかったと思います。でも本当に、まちを二つに分けたりとか対立するのはもう嫌なんです。もうみんな思いは本当に一つじゃないかなと思ってのんです。それで、私たちでできることは何だろうということで、一応、要望を出そうということで言葉が間違っていたとしたらそれは失礼に当たったなと思っております。どうかそこら辺を酌みおきいただいて、よろしく願いいたします。

濱之上大成委員

いやもう本当に申し訳なく、私も質問しながら申し訳なく思っております。ただ、やはりある程度の理解をするもんですから。しかし、いろんな面で複雑な思い、あるいは同日だと市長も議会も空白がある。一週間。果たしてどうなるだろうとか思う人もいるかもしれません。そして、いろんなこう複雑な思いで、一応、形上、質問をしないといけないと思っておりますので、どうか御理解いただいて、質問を終わります。

山田勝委員

皆さん方のそれぞれの思いを率直に言っていただいて、本当に市民それぞれの考えがあつて、それをそういう形でお出しになるということは、これは全く市民に与えられた権利ですので、それは失礼でも何でもありませんから。ただ、そういう中で私どもはこう思いますよという話で、私なりにお尋ねをしてみたいんですが、私は38年議員をしますといろいろありましたよ。まず最初は、皆さんがおっしゃるように市長選と議員選は一緒でした。ところが途中で市長が亡くなって、市長が亡くなったら議会解散するわけにいかないわけですから市長選挙と議員選挙は別になりました、ずっと。そのあと今度は、国立病院再編計画の件で、阿久根市の議会が医師会から出された陳情を採択

して厚生省に意見書を送りましたよ。後にも先にも、国の省庁が地方の意見書を採択してくれるのは初めてですよ、これだけ。でも、あのとき阿久根市議会は勇気を奮ってやった。結果どうですか。もしあのまま住民の意見を聞いていたら、この付近は医療過疎ですよ、医療過疎。だから、それは、私はそのときの判断だったと思いますよ、議員としての判断。その後、また、何回かありましたけれども、ですから、市長が死ぬとかあるいは議会や何か不祥事あってリコールがあるとしたときには必ず別々になりますが、そういうときには、また陳情を出されますか。本来、別々にすることになるんですが、そのときもまた陳情出されますかと、今、お尋ねしてみたい。

中村健二郎参考人

今、山田議員の話は、ネットを調べて、そういうのがあるってことは見てきました。やっぱり、そういうことはないとは限りません。陳情を出しますかということですから、陳情もそう、いきなり今年してもらって、来年そういうのがあったとしたら、なかなか出せないというのはあると思います。そのあと4年ありますので、2年後とかそういう感じになってくるとまた、もう任期がですので、なかなか陳情も出せないかと思えますけれども、ここ十何年間ですかね、ある中で、4か月の期間がありますので、そこで今回は陳情させてもらったという形です。それで、今、山田議員への話の答えというか、それはそうやって市長が亡くなったとか何かがあった上で、また選挙しないといけないとなったら、なかなか難しいところもあるのかなと自分も思います。

中村壯参考人

御質問ありがとうございます。先ほど申し上げたようにタイミングはあるかとは思いますが。時期が違う。その都度都度、思っているわけではありません、正直。できるとき、できないときがあると思います。今回はできるのではないかと思って、陳情をしているということです。先ほど中村副会頭もおっしゃったみたいに、選挙1年後とかに市長が亡くなった場合は、別になるともちろん思います。今回は4か月なので一緒にできないかなとお願いをしているところです。

松木洋輔参考人

今回に関しては、コロナ禍で市民生活もかなり苦しいという事情があって、今のタイミングであれば、選挙に使うはずだった予算をほかに回せるのかなというところがあって、コロナ禍でという特殊な事情で、陳情が必要じゃないかなと思った次第です。

下園正博参考人

陳情を出しますかということだったので、私は恐らく基本的に出すと思います。もう1回こういうことがあったとしても。これは、今まで何十年という間にこういったことが何回あるかって私も把握はしてないんですけども、そんなにめったにあることではないんじゃないかなというふうに考えています。そういったときに、例えばこの削減する費用が20万円とか10万円とかそれしか削減できないというのであれば、そうでもないんですけども、何百万円とか1,000万円削減できるということであれば、やはり、そこを天秤にかけるじゃないですけども、やっぱりそこを考えて、この場合はやっぱりやったほうがいいと、一緒にしたほうがいいという陳情を出すのではないかなと私としてはそういうふうに考えて出すと思います。

大野雅子参考人

御質問ありがとうございます。私は考えたときに、とにかく今回は、4か月のうちに

3回ということで、期間が短いというので、とてもいいタイミングだなと思ったのでしました。また、これが新しく変わってきた場合、陳情を出すかどうかは、実際のところ私は今は分かりません。分かりませんが、今回こういうことで自主解散していただけたら、そういう事例が残って、そのときの議会の方たちがまた判断してくださる材料になるのではないだろうか。それを考えて、そのときにまた自分たちで判断を最初にしていただければ、もう私たち陳情必要ないですよ。そんなふうに思っております。

山田勝委員

非常に、私、難しいと思いますよ。皆さん方が今、私の質問にお答えになったことそのものも難しいと思いますよ。例えば4月だから12月にして4月という、それをいろいろ言う人もいますよ。でも、この法律に基づいて粛々とやってるんですよ。何も私たちがとそういう気持ちの一つあります。それと、私は今、自分の議員活動を振り返ってみて、率直に申し上げて一生懸命やっていますよ。議員活動の一つとして脇本小学校の山田楽の指導に行きますよ。中学校にも行きます。ふるさと納税も一生懸命やって、今年は1,000万円ぐらい阿久根市に集めたいと思っています。それをいろんなものに使って欲しいと思っていますよ、教育に。だからそういう中で、あるいはこの道路が草が生えている、あるいは側溝が詰まるとそういうのもの的確にしていけないといけないんですよ。先の議会で市長が、梶折鼻公園の先の入口に阿久根市が道路をつくるということで発表してくれました。阿久根市が観光バスの行く道路をつくりますよ。市長がやると言ってくれたからよかったですよ。私も一生懸命、あなたのそばで県議会に行って、一やまも二やまも掘ってきました。そのときにはいろんな人が来てました。会議所の人とかいろんな人が来ていました。出水はあったけど。皆さん方が行かれたかどうか分かりませんが。ですから、いろんな舞台にですね、議員の皆さんが一生懸命やっているわけですよ。だから、皆さんがどういうふうに、決められればそれでいいんだけど、私は基本的には、一生懸命やってるのになあという気持ちがいっぱいです。

それと、先に、老人の選挙の話をされましたけど。これは選管がもう少し気を利かせないといけないと思いますよ。例えば、鶴翔高校で期日前投票できないことはないんですよ。鹿児島大学でやっているのに。そうしたら全員しますよ、阿久根市の人。それぞれの各集落でやったら、もっともっと身近にできると思いますよ。そういうのも私たちの一つの仕事として、住民が参加していただくようにどうしたらいいかということもしますし、それから行政改革についても、長いのもたくさんやってきましたよ。特に今、学校給食なんていうのは3,000万円ぐらいでできますけど、20年前は2億5000万円人件費がかかっただけですよ。保育園の民営化も同じですよ。これもやっぱり、一生懸命やってきました、議会が。一生懸命やってきました。

ですから、そういう意味で、皆さん方の今、いらっしゃるようなことは考えなかったけど、でもどうしたら住民が喜ぶか、住民の福祉につながるか、私は今回のプレミアム付商品券についても、これは阿久根市のヒットだと思いますよ。1,000円で1万円の商品券っていうのは。うちの店に来て長島の人も出水の人と言いますよ、阿久根市はいいですよ。阿久根も出水も川内も同じようなお金がくるんですよ、人口比率で。それをどういうふうにするかというのは、それぞれの市町村の考えですよ。市町村長が考えて、議会がそれはいいことですよと皆さん一生懸命になって議決してくれないと前に進まない。そういう意味では、皆さんよく頑張っているんですけど、それも御理

解いただきたいと思って、今日はたくさんしゃべらせていただきました。失礼いたしました。

濱崎國治委員長

御意見でよろしいですね。

〔山田勝委員「いいです」と呼ぶ〕

竹之内和満委員

まずは陳情10号のほうです。阿久根市議会議員選挙と市長選挙を同日に実施することを求める陳情。団体から出ている陳情なんですけど、これを読ませてもらって、陳情11号と違うのは、令和4年度中の選挙でというふうに書かれておりますが、まだ市議会の自主解散を求めるというふうには11号には書いてありますが、10号に関しては一切それがないんですよね。何年度というの載っていないし、自主解散を求めるともなっていない。単に同日選挙を実施することを求めるとなっていますが、そこらあたりはどうなんでしょうか。

中村壯参考人

御質問ありがとうございます。表現が難しいなと正直思っております。先ほど、濱之上議員とか山田議員がおっしゃったように、言葉のチョイスがかなり難しいと思いましたが、何月何日とかいう表現をなるべく避けたつもりで出したんですけども、表現としては、11号と似た形になっていると思います。同日実施という時点で、時期が4か月ずれているわけですから、市議会議員選挙については令和5年度にずれ込むと思うんですね、今のスケジュールでいうと。ですので令和4年度中、同日という表現でお願いをしているところです。

竹之内和満委員

そうしたら、11号と一緒に本年度中に開かれる市長選挙に市議会議員を同日。そのためには自主解散を求める。そんな趣旨でよろしいでしょうか。

中村壯参考人

記録に残ってしまうとあれですけども、その趣旨で間違いないと思います。

竹之内和満委員

分かりました。一応確認でした。

もう一つ質問なんです。10号も11号なんですけど、陳情内容、陳情理由が幾つか挙がっております。どちらも複数挙がっておりますが、その中で一番大きな理由というのは、一つ挙げてもらえば何になるのでしょうか。10号のほうからお願いいたします。

中村壯参考人

大きな理由といたしましては、財政面ですね。ここに使うお金を違うところに使えないかというところが1点。僕の中で同じぐらい大きかったのが投票率のアップです。まさに選択肢を持たせるのに、投票所に行くことがすごくしんどい状況というのは、何とかできないかなと思っておりましたので、そこもあわせて陳情したところです。

中村健二郎参考人

商工会議所としましては、先ほど濱之上委員から質問あったときに言いました、年末と3月・4月の送別会・歓迎会、そこにいろいろな飲食店の方々が少しでも、このコロナでなかなか商売のほうも難しかったと思いますので、そこに少しでも、どちらかにお客さんが入っていただければなと思ってですね、商工業のほうでは、そうやって話が出

ていましたので、それを付け加えさせていただきたいと思います。

下園正博参考人

私も、その一番はやはりその財政面ですね。費用が削減できるのであればやったほうがいいんじゃないかというふうに思っていて、例えば、事業をするときに、どこかに1時間ぐらいかけていかないといけないというときに、その日1時間かけてそこに行って、その3日後にまたそこに1時間かけて行ってということよりは、1時間かけても何件も同じ内容を終わらせて、まとめてしまおうというのが普通に考えることでして、それと全く同じような理由で、選挙も一緒にできるのであれば一緒にしたほうが削減できるし、いいんじゃないかというふうに考えています。

本当にここは誤解しないでいただきたいんですけども、皆さんに対して不信感があるとか、全くその、何かそういうふうに思ってるわけでは全くございませんので、皆さんいつも応援していただいたりとか、私たちも、すごく市議会の議員の方たちのことで非常に助かってることが多いので、そここのところは御理解いただきたいなと思っております。そういうことをしている議員の方たちというのは、絶対、何回選挙したとしても、皆さん市民の方は見えていますので、多分、次あったとしても当選をもちろんされるでしょうし、全くそこは私、不信感があるとかそういうことではないので、そこは御理解いただければなと思います。

松木洋輔参考人

同じく一番やっぱり重要視してるところは費用の削減ですね。とにかくコロナ禍で、かなり疲弊したまちだと思いますので、もし使えるのであれば、そのお金をほかの事業に回していただきたいというのが一番大きい理由のところになります。

大野雅子参考人

私も皆さんと同じで、一番はやっぱり費用削減でございます。その分をどこかいいところに使えたらなと思っております。

本当に不信感は一切ございませんので、そこは御了承ください。

仮屋園一徳委員

陳情の内容についてはよく理解しますし、賛成いたします。ただ、今、出された期日、期間について、先ほどから出てます、私たちに与えられたのは4年間、4年間のうちで残る1年なんです。1年の中で議員はみんなそれぞれ、来年の4月までの計画があります。それは議員だけではなくて、今からこの次の選挙に出馬してみようかという方も含めて期間がちょっと短いのではないかなと思いますし、一つはそれなんですけど。

もう一つは、先ほどから出てます予算についてですが、それはもう一緒にしたらそれだけ浮くというのは理解できます。ただ、先ほどもありましたように、阿久根市は、11～12年前に、今は4年に1度、3回、ちょこちょこ選挙があるという内容なんですけど、10年ちょっと前は、何年かのうちに市長選、議員選挙が何回も繰り返されて、そのたびに市の予算で選挙がなされたわけです。それを、今さら中身をどうこう言うつもりはありません。ただ今回の、言えば4年に1回の選挙の費用が安いのか高いのか、その辺も含めてですね、今私が今二つ申しました、その辺についての考えを、陳情者のうちに1人ずつでいいですので、お聞かせいただければと思います。

中村壯参考人

御質問ありがとうございます。費用について、実際幾らかかるのかというものについ

ては、承知しておりません、私自身はですね。ただ、10万円でも20万円でも費用が浮くのであればという思いです。その分、ほかに使えるのであればというのがまず1点。

選挙が繰り返された歴史についてももちろん承知しておりますし、それが果たしてというものも、もちろんあります。今回の選挙の期間が短い点について、それももちろん承知した上ではあるんですが、新人の方が例えば出られる期間が短い。でも、それは多分条件は、今おられる議員の皆さんもこのタイミングであれば一緒だと思うんですよね。そこについては不公平感はないと思いますし、そこについての判断を南日本新聞であるとか、ホームページ等で公表することによって、そこについては、同一の期間を与えられるものというふうに認識をしておりますし、ここから1年間の活動が4年間の活動の集大成であられることももちろん重々承知しているんですけども、この今までのやられてきたこととこれからすること。私が陳情した内容を例えば御承認いただいて、そのようになったとしたときに発表されるものでは、大分印象度も違うと思うんですよ。まちに対するこういうふうな思いで、議会がこうしましたよという、そこまでの話ができると思いますので、今回の陳情で期間がというところであれば、そこは12月の選挙であれば今7月なので、あと5か月。期間が短いことは重々承知ですが、そこについては何とかなるのではないかなと思っております。

下園正博参考人

確かにですね、今お伺いして4年間という期間で、この時期にこういうのを計画しようというのを考えられていた場合は、確かにそれが短くなるということですね、計画どおりいかないというふうに考えられるのもっともだなというふうに思いました。ただ、今回こういうふうに、全く別々のところからですね、いろんな団体がこういうふうに陳情を出してるわけですけども、これがもし今回で駄目な場合は、恐らく20年とか変わらない可能性も高いなと思ってまして、そうすると20年間、4回とか5回その選挙費用がまたひっかかってくるわけなんですね。それは非常にもったいないなという印象が非常に強いです。もしそれが数千万円とかの費用であるのであれば、その数千万円あれば本当に何か新しいものをつくることもできますし、新しい事業も市の財政として作ることができると思うんです。なので、そこを考えるとやはり、今回、私たちがお伺いいただいた内容というのをぜひ酌み取っていただけるとありがたいなというふうに考えています。

白石純一委員

両陳情者にお伺いします。同日選挙を双方ともに求めるという趣旨がわかりました。そして12月ということも話の中で出てきております。私も選挙管理委員会に最終的に確認はしておりませんが、過去2回の選挙は、市長選は12月。その前の市長選は1月だったと記憶しております。したがって、もし可能であればその12月にこだわらない、1月でも可能であればということなのか、12月ということが大変多く出てきましたので、その辺りを教えていただければと思います。

濱崎國治委員長

ちょっと休憩します。

(休憩 午後2時25分～午後2時27分)

濱崎國治委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。

白石純一委員

先ほど来、2陳情団体、個人の方々から、12月を前提としたような発言が多かったものですから、もし法律上許せば選挙は1月に入ってからでもいいという理解なのかを教えてください。

中村壯参考人。

法律が許せば何月でも、なので2月であろうが3月であろうが、任期がもちろんあるんでしょうから、法律が許せばと思っております。あくまでも求めていることは同日選挙であって、12月というわけではありません。よろしくお願いします。

濱門明典委員

今まで私もじっと聞いておりましたが、参考人の方々、両参考人、非常に勇気ある行動だったなと思います。

本当に今、私たちも阿久根市議会議員として、市の財政というのに目を向けているわけですね。そういったときにこういう陳情が出たということは、非常に勇気ある行動であり、市民にとっても、私も周り聞いたときに、それはいいねという声が非常に聞かれておりますので、皆さん方の勇気をたたえて、私たちは選挙で選ばれた人間でございます。その中で、行政に対しての監視役というのも一つ担っております。そういう中で、市民からこういう、2団体から陳情が出たということは本当にいいことだなと思っております。ただできることなら、我々も自主解散という一つのあれがあるんですけど、そこを超えてですね、本当に阿久根市のために、できればですね自主解散して、同一選挙ができればなと私は思っております。皆さん方の今意見聞きますと、やっぱり費用面というのが非常にアピールされています。選挙というのは期間があります。期日前投票もあるし、選挙に関してはどうのこうのというあれはないんだと思います。やっぱり費用面というのが一番の、皆さん方のを聞いていると、そこを削減して、ほかにコロナ禍で市民も苦難を乗り越えようとしていらっしゃるところで、やっぱり市議会のこの同一選挙することによって費用が浮いてくるんだしたら、ほかにそういうものを回していただけないかという陳情と私は受け取っておりますが、それでよろしいでしょうか。

中村壯参考人

その認識で大丈夫だと思います。

ありがとうございます。よろしくお願いします。

仮屋園一徳委員

先ほど12月開催を前提にとの意見が多いという発言がありましたので、確認をしますが、以前は2月に行われて、それで1月の15日だと正月に活動が重なるので12月になったというふうに記憶してますので、その辺はちゃんと後々、選管のほうに確認をすれば済むことだと思いますけど、確認をしておきます。

濱崎國治委員長

御意見ということでよろしいですね。

〔仮屋園一徳委員「はい」と呼ぶ〕

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。

参考人への質疑が終了しました。

最後に、参考人からありましたらお願いします。

中村健二郎参考人

本日は、参考人として呼んでいただいて貴重な意見を聞きました。よかったと思います。議員の方々に仕事をしていないのかなど、そう思っているわけではありません。皆さん方、本当に頑張っていてやられていると思います。それで、議会も市民も市長もみんな一緒になって阿久根市がよくなればと思って陳情を行った次第ですので、その辺はお願いしたいと思います。

あとは、皆様方がいろいろ議会事務局ともいろいろ話をされて、いい方向に持っていければなど。いい方向にと言え、自分たちが陳情したものになりますけど、阿久根市のためになる方向にやっていただければと思いますので、今日は本当に貴重な時間ありがとうございました。

中村壯参考人

本日は貴重なお時間をありがとうございました。

途中、失礼な発言や表現があったかと思いますが、そこは御了承いただければと思います。今後とも、阿久根のために、皆さんとともに何かできることがあればと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

山田勝委員

市会議員選挙に出る人を見つけてください。よろしくお願いいたします。

濱崎國治委員長

以上で参考人への質疑を終了します。

それでは私から御礼を申し上げます。

参考人におかれましては、大変お忙しい中、御出席くださいます。心から感謝申し上げます。本日お伺いしたことを今後の審査に生かしてまいりたいと思っております。

誠にありがとうございました。

参考人は退室してください。

[参考人退室]

濱崎國治委員長

続きまして、今後の審査について皆様にお知らせいたします。

次の審査は、選挙管理委員会事務局に出席を求めて、選挙制度等について質疑を行います。この審査の日時については、昨日、参議院議員選挙が執行され、本日も選挙管理委員会事務局は、投開票に関する文書などの提出のために県選管に出向いており、数日は、結果報告などが行われる状況です。参議院議員選挙に支障ない範囲において、出席できる時間を速やかに確保するよう選挙管理委員会事務局に求めますので、具体的な日時については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

御異議なしと認め、そのように決しました。

開催日時が決まり次第お知らせします。

以上で、本日の市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会を散会します。

(散会 午後 2 時36分)

市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員長 濱 崎 國 治